

土器からみる移動と交流

縄文時代には、各地で地域色の濃い土器、いわばご当地土器がつくられました。法正尻遺跡は、東北地方南部に広がる大木式土器圏に位置しますが、北陸地方をはじめとする様々な地域の特徴をもった土器も出土しています。これらの土器は、当時の人々が移動や交流のネットワークをもっていたことを私たちに教えてくれます。



北陸 style の土器

北陸地方の火焰型土器の特徴をもった土器。口縁部に立体的な装飾が付き、縄目の文様はなく、土器全体が隆線^{※1}と沈線^{※2}で埋め尽くされています。



※1 隆々と盛り上がった線
※2 粘土の上に棒で引いた線

333号土坑出土土器

北陸地方と地元のハイブリットな土器

火焰型土器と大木式土器の特徴を併せ持つ折衷土器。



404号土坑出土土器

地元 style

東北地方南部に分布する大木式土器。縄目の文様が施され、その上から沈線で文様が描かれています。



345号土坑出土土器

縄をコッココと転がすと縄目の文様がつくよ!

くらしの道具

法正尻遺跡からは、木の実などをすりつぶした道具（磨石・石皿）が多数出土しています。このほか、動物の解体や皮を加工するときに用いられた道具（石匙や搔器）が多いことも特徴的です。

一方、狩りの道具（石鏃）や木を切る道具（磨製石斧）、土を掘る道具（打製石斧）の数は、それほど多くありません。

石匙のほとんどが他地域から運ばれた珪質岩と呼ばれる石からつくられているよ!



大木7a~8a式期の磨石の多くがこのような横長のタイプで、大型石皿と共に使用されていたと考えられます。



磨石・石皿

シンボル

祈りの表象

法正尻遺跡では、祭祀にかかわると考えられる道具も出土しています。人々は何を思い何を祈ったのでしょうか。

あたいは、べっぴんさんではないけれど、胸の下と背中が文様が自慢なの。うふふ

わたくしは、バッチリ決まったヘアースタイルと耳飾りが似合う。グーじゃすなムラー一番のべっぴんさんでます♡



土偶



土偶



三脚石器



三角柱状土製品

法正尻遺跡展1

見どころ
解説

法正尻遺跡について

法正尻遺跡は、縄文時代前期末～中期末の集落跡です。磐梯町と猪苗代町にまたがり、北に磐梯山を望む丘の上に位置します。磐越自動車道建設に伴い昭和63年・平成元年に発掘調査を行いました。遺跡からは多くの竪穴住居跡や土坑[※]、そして多量の土器や石器などの遺物が見つかりました。東北地方南部の縄文時代中期を考える上で貴重なものであることから、出土品のうち855点が平成21年に国の重要文化財に指定されました。

※地面に掘られた穴



遺跡データ

場所 磐梯町大字更科字遠平、猪苗代町大字翁沢字遠山

調査 21,000㎡を調査（遺跡の範囲は推定約75,000㎡）

遺構^{※1} 竪穴住居跡129軒（内1軒は平安時代）、土坑759基、土器埋設遺構26基、ほか

遺物^{※2} 土器片約260,000点、石器類約3,350点、土製品及び石製品約170点

ここがスゴイ① 遺構の数と遺物の量の多さ!

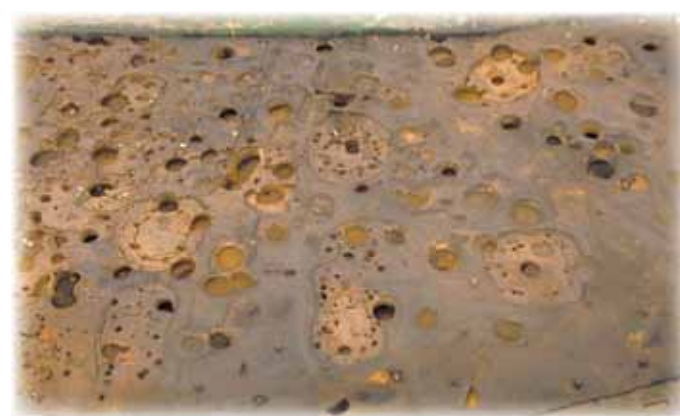
ここがスゴイ② 縄文時代前期末～中期末にわたってほとんど途切れることなく人々が暮らした痕跡がある!

ここがスゴイ③ 様々な地域の特徴をもつ土器がまとまった状態で多く出土している!

※1 地面に残された過去の人々の活動の痕跡 ※2 過去の人々がつくり、使った道具類など



磐梯山と法正尻遺跡



遺構集中部

法正尻遺跡が最も栄えた『縄文時代中期』ってどんな時代?

1万年間続いた縄文時代の中で、今から約5500年前～4400年前を縄文時代中期と呼びます。この時期は、東日本各地に大規模な集落が営まれました。遺跡の数も増加します。また、日本最大級の集落遺跡である青森県三内丸山遺跡[※]や、教科書でおなじみの火焔土器が出土した新潟県馬高遺跡なども、縄文時代中期に営まれました。土器は立体的な装飾がついたものが多くつくられ、縄文文化の最盛期とも言われる時代です。（※三内丸山遺跡は縄文時代前期中頃から）

法正尻ムラのすがた

コナラ属の
木はドングリがなるよ

法正尻遺跡は、磐梯山麓の起伏に富んだ丘陵地に位置します。また、周辺にある法正尻湿原の縄文時代の堆積物の花粉分析結果をみると、この一帯にはコナラやケヤキなど、落葉広葉樹の豊かな森が広がっていたようです。このような環境の中で縄文人はこの地に集落を営みました。

縄文時代中期前半は、東側の浅い窪地を取り囲むように住居群が営まれ、縄文時代中期後半になると、住居群は西側の台地に移ります。

今回の展示では、縄文時代中期前半の集落のすがたを紹介します。

右の絵は、今から約5200年前（大木7b式期）の遺構から推定した集落のすがたです。

長方形の大きめの住居と円形の小さめの住居が混在しています。



415号土坑



29号住居跡（東から）

住居から西に60m程離れた丘の上のフラスコ状土坑（食料貯蔵用の穴）がまわっているエリア。たくさんの土器が出土した415号土坑もこのエリアにあります。住居のそばにある貯蔵穴とは別の性格だったのかもしれませんが。

浅い穴はお墓だったのかもしれませんが。25号土坑からは副葬品と考えられる土器が出土しています。

それぞれの住居のそばに、食料貯蔵用と考えられる穴があります。

同じ軸方位で、重なり合っている縦穴住居跡が複数見つかりました。数百年に渡り、複数世帯が同じ場所に何度も建て替えを行っていたと考えられます。



25号土坑

法正尻ムラのうつりかわり（縄文時代中期前半）

下の図は、法正尻遺跡（調査区）の時期ごとの縦穴住居跡と土坑と土器埋設遺構の配置を示したものです。

大木7a式期《約5500年前》

西端の西に下る斜面と東の窪地に

それぞれ数軒の縦穴住居跡と土坑が分布しています。

大木7b式期《約5200年前》

浅い窪地を取り囲むように、縦穴住居跡と土坑（食料貯蔵用と考えられる穴）などが分布します。

大木8a式期《約5000年前》

この時期も、東側に縦穴住居跡群があります。一方、西側には、100cm以上の深さを持つ土坑（食料貯蔵用と考えられる穴）が集中しています。

▲ 縦穴住居跡
● 土坑
★ 土器埋設遺構
標高 低 → 高



54号住居跡
出土土器

遺物包含層
出土土器



415号土坑
出土土器

415号土坑
出土土器

415号土坑
出土土器



1号住居跡
出土土器

365号土坑
出土土器

429号土坑
出土土器